富士川

6月号 昭和45年6月25日 No. 120

富士川町役場発行
富士川町岩渕121番地
電 (81) 1111

町の人口

45.6.1現在	15.229人
男	7.528人
女	7.701人
世帯数	3.447世帯
(面積	31.09K㎡)

印刷／望月印刷所 T(81)0304

六月一日、当富士川町の町制施行70周年記念式典が、第一小学校体育館で挙行されました。

駅舎改築落成、上水道10周年、駅名・郵便電々両局名「富士川」改称記念をあわせて行なわれたものです。

まず、午前九時半、駅舎改築落成式が、関係者七十余名を集めて現地、富士川駅で開かれた後、午前十時半、式場を一小体育館に移し、富士川町名誉町民五氏への称号贈呈、自治功労者表彰、感謝状贈呈を中心に、厳粛な内にも盛大に挙式されました。

出席した招待者、関係者は四百五十余名、さしも広い体育館も満開な人の花。

自衛隊音楽隊の吹奏する式典曲に、祝賀の気運もいっそう高まり町の発展に尽力された功績者をたたえる拍手は万雷のようでした。

富士川町が町制を施行したのは明治三十四年の昔、人口五千の町として出発以来七十年の歳月をかけて現在の町勢を築きあげたわけです。

この記念式は、今、ここで、先人のご労苦をしのんでその功績に感謝し、さらに住みよい郷土建設への意欲をかきたたせるため、まことに意義深い行事であったと言えましょう。

町七十周年記念表彰
受彰者十七名

今回の町制施行七十周年記念表彰は、昭和三年十一月三日の御大礼記念表彰を皮切に、紀元二千六百年・地方制度改正・町制施行五十周年・講和発効・合併十周年の各記念表彰に続き第七回目。

新設された富士川町名誉町民条例にもとづく名誉町民の称号贈呈が、今回の表彰の大きな特色となっています。

以下、六月一日に表彰された方の氏名を掲載します。

町制施行七十周年記念受彰者

（敬称略）

■**名誉町民**…名誉町民条例による

佐藤虎次郎（清水市長）
野田力三　（野田合板社長）
野間省一　（講談社社長）
斎藤頴夫　（全国喫茶業組合連合会理事長）
井上俊夫　（富士川製紙社長）
（名誉町民の略歴は五月号に掲載済）

■**町議会謝恩**

中川国兵　（町長）

■**自治功労**…町表彰条例による。

斎藤六郎　谷津倉　昇
渡辺　勝　大久保芳夫
久保田安男

■**教育功労**…町表彰条例による

塩坂幾次郎

■**多額寄付者**…町表彰条例による

斎藤頴夫　秀村敏朗
清　市郎　故中野幸一
日本軽金属株式会社

——◇——

なお、同席上、次の方に感謝状が贈られました。

感謝状贈呈　（敬称略）

・水道事業功労者
故斎藤邦雄　池谷孝太郎
・教育文化功労者
故谷津倉寛一
・治安維持功労者
故斎藤金平
・永年勤続職員
望月義信　平田広胤　望月計夫
池田留吉　西尾静江　勝呂ツル
山田貞子　上野君江　鮎川伸代
佐野節子　遠藤梅子　井町京子

写真　受彰者と感謝状を贈呈された方　最後列右から清市郎・望月義信・大久保芳夫・谷津倉寛一長男・久保田安男・中列から望月計夫・上野君江・勝呂つる・谷津倉昇妻・中野幸一妻・斎藤邦雄妻・斎藤金平妻・平田広胤
前列右から　鮎川伸代・井町京子・池谷孝太郎・野田力三・佐藤虎次郎・斎藤頴夫・井上俊夫・中川国兵・斎藤六郎

表彰基準

名誉町民条例

第2条　本町の町民または本町にゆかりの深い者で、公共の福祉を増進し、または学術探究に寄与するなどひろく社会の進歩発展に貢献し、町民の象徴となり得る者で、町長が町議会の同意を得た者に名誉町民の称号を贈る。

表彰条例

第2条　本町の町民、団体および職員で次の各号のIに該当する者のうち、功績が特に顕著な者について、この条例の定めるところにより町長が表彰する。

（以下抜すい）

(1)自治の進展に貢献した者。
(2)教育・学術・技芸・体育その他文化の振興に貢献した者。
(3)町の公益のため多額の金品を寄付した者。（規則により五十万円以上）

既表彰者教

①御大礼記念表彰
昭和3年11月3日
自治功労47名・善行者10名計57名

②紀元二千六百年記念表彰
昭和15年12月20日
町出身篤志者謝恩1名
町会謝恩1名・自治功労24名善行者25名　計51名

③地方制度改正記念表彰
昭和22年2月11日
町会謝恩1名・自治功労6名　計7名

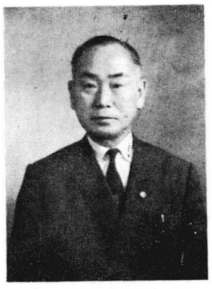
④町制施行五十周年記念表彰
昭和25年5月3日
自治功労95名・善行者5名計百名

⑤講和発効・図書館落成記念表彰
昭和27年8月5日
自治功労1名・産業永年勤続7名善行者9名　計17名

⑥合併十周年記念表彰
昭和42年3月26日
町会謝恩1名・自治功労61名・教育文化功労12名・産業経済功労4名・社会福祉功労5名・保健衛生功労5名・治安維持功労2名・多額寄付者13名・善行者4名計百七名　ほかに感謝状贈呈65名

町制七〇周年に際し

富士川町長　中川国兵



富士川町が町制を施行したのは明治三十四年で、人口五千の町として誕生しました。七十年の昔のことです。

田中別荘（現野間別荘）が落成したのが明治四十二年、田中光顕伯は、富士の展望と閑静な自然美とを愛してここに住みつかれたものでしょう。

その富士川町が、時代の進展と住民の郷土愛に支えられて、山間部における蜜柑を中心とした農業の開発、東南部の工場地帯の発展国道一号線沿線の商業街の形成というように、町は隆盛の一途をたどって今日に及んでいます。

町勢の一端を取りあげてみますと、人口は一万五千二三四人、世帯数三千四三八で漸増の傾向を示し、テレビは一戸に一台、電話も二戸に一台、自動車はやがて一戸に一台に迫ろうとしています。国県・町道、農林道の総延長は一一万五千メートル、公営住宅は八五戸。水道の給水戸数は三千二四一戸に達し、サービスエリヤの開設とともに使用量も急激に増大していますが、水源の確保には万全が期せられています。衛生プラントじんあい焼却場、共立蒲原病院等の衛生施設も順調に運営され、町民皆さんの保健衛生に役立っています。

また、通信運輸関係におきましては、今回その名称も富士川駅、富士川郵便局、富士川電報電話局と改称して面目を一新、発展する町勢を反映してその利用度は極めて高いといえましょう。

産業方面を見ますと、町東南部の工業地帯のパルプ・製紙・合板薬品・繊維等の生産は伸長を続け農業においても公害等の悪条件をもちながらも堅実な伸びを示し、各種商店また、真剣な経営に努力しています。

教育文化の面では、町立の第一二幼稚園、第一、二小学校がこの五年間に建築整備を完成、中学校は、統合問題も含めて施設の実現を考えています。三保育園、宇多利児童館は、働く婦人の幼児をおあずかりして成果をあげています社会教育においては、町教育委員会が職員の手薄な現況をよく克服して時代に即応した活動をしていますが、体育協会、文化協会等の自主団体も、町文化、社会体育に貢献してくださり、深く感謝しています。文化財保護の仕事も、こと数年、山王遺跡、谷津原古墳の発掘調査をはじめ、多くの婦人方のご協力で民俗資料を収集、これを二小旧給食室を改造した資料室におさめ、目下整理中です。

町におきましては、今般、条例を制定して、富士川町の誇りとする方々に「名誉町民」の称号を贈ることにしました。佐藤虎次郎、野田力三、野間省一、斎藤頴夫、井上俊夫の五氏は、業界・政界に大きな功績をもって寄与し、全国的に知名度高く、富士川町名誉町民として、わたくしたちの範たる方々であります。

情報化の時代を迎えて産業各界の進展には目覚ましいものがあり行政面においても、その影響を受けて広域行政が叫ばれる今日です

わたくしは、町民皆さんの真の幸福と繁栄のために大きな決意をもって対処していく覚悟です。

今後とも、町民皆さんのご理解とご協力をせつにお願いする次第です。

富士川駅誕生

通路橋渡り初めに

三夫婦（親・子・孫）二組

岩渕駅舎は、昨年十一月二十五日に改築着工、ことし六月一日にその名も富士川駅と改称して新しく誕生しました。

新駅舎は、駅本屋が鉄筋コンクリート3階建、延六四三㎡。東口通路橋は、鉄骨造り長さ六六m、幅三m。

工費七千二百万円。

停車列車数、上り下り客車32本貨物19本。

六月一日行なわれた落成式には川坂の簑常次郎さん三夫婦（常次郎84歳えん・武司58歳サト子・孝34歳伸子）と大北町の松下千代吉さん三夫婦（千代吉81歳やす・弥佐久51歳いち・武27歳康江）の二組が通路橋の渡り初めに出席しました。

写真　新装なった富士川駅

記念入場券

全世帯に配布

駅舎改築・駅名改称記念入場券は、六月一日に発行されましたが全国から購入希望が殺到するなど国鉄の事情により、町民皆さんへの配付が遅れていました。

本日、（六月二十三日）到着しましたので、お手許へ配付します

全国の収集家の人気をあおったのは、全国一古い駅舎が改築されしかも駅名が岩渕駅から富士川駅に変った、その記念入場券であり枚数も制限されているためです。

三町合併

しあわせはどこに

庵原郡三町は、気候風土等、自然の立地条件に恵まれ、東海道メガロポリスの中間にあって、将来の開発、発展が約束されています

両隣り、静清・岳南地区の躍進は目ざましく、市民サービスも徹底化し、市民生活の水準は著しく向上しています。ちょうどその谷間にあるようなわたくしたち三町住民は、ここで、激しく変動する社会状勢を検討し、自分たちの将来のしあわせをつかむにはどうしたらよいか、子や孫のしあわせのためにどのように判断したらよいか、真剣に考えねばならぬ時を迎えています。

生活水準の向上と交通通信手段の爆発的な発達により、わたくしたちの生活変化は激しいものがあり、したがって、町という自治体に新しくしかも大きな行政サービスを求めることになります。上下水道の完備等生活環境の整備、図書館・郷土史料館・劇場・市民会館等の文化施設・総合グランド・プール・体育館・公園等のリクレエーション施設の建設が必要であり、都市化につれて、青少年対策や公害対策など新しい行政をも要請したくなるわけです。

しかし、これは町単位の小さい行財政基盤では不可能ですし、両隣りの市民との文化格差は拡がる一方です。

庵原郡三町は、従来から広域行政をすすめてきており、病院・し尿処理・隔離病舎・焼却場・水防消防等は三町の行政区域を越えて共同で処理しています。このことは、裏返せば、経済の進展とわたくしたち住民の生活水準の向上が行政の需用を高度多様化し、一町単位では十分な住民サービスができないことを物語っています。

本年三月に成立した三万都市法案は、二ヵ年の時限立法であり、合併するならば、今こそ市制施行の絶好な時機と言えましょう。ここに三町がもてる力を結集して、大同団結をはかり、市制を断行して都市化を推進、わたくしたち住民の高度生活化に対応でき得る自治体を確保し、もって郷土の発展をはかる必要があります。

合併の必要性

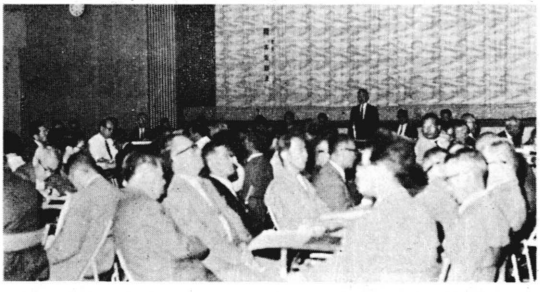


写真　五月十五日一小体育館で開かれた第一回三町合併問題説明会

合併の利点

①合併により、行政力と財政力が増大します。

行政組織の近代化、合理化により、すぐれた人材、良質な職員を確保でき、わたくしたち住民に程度の高い行政サービスが提供されます。

起債能力の増大等により財政規模は拡大し、今までの限られた町税収入では、わたくしたち住民の生活に必要な施設も大規模な建設投資もなかなか進められませんでしたが、新市になることにより、思いきった財政投資が可能となります。

合併に必要な建設計画（観光開発、三町循環道路の整備、農林道開発改良等）の策定により、国・県からの大幅な援助を得て、商工業、農林業、サービス業の発展が促進されます。

行政機構が統合される結果、今まで各町が同じ施設をそれぞれ建設していくというような二重投資がなくなり、経費は大きく節減されます。なお、このほか、集中管理、特別職の減少などによっても現状経費を節約できます。

②公害排除に威力を発揮することができます。

公害については、現在すでに全国の問題であるばかりか、全世界の課題として大きくクローズアップされた結果、国・県の姿勢、企業側の態度はこと一年間で急速に変転し人命尊重を第一義に、真正面から取組むようになっています

当町で今問題として掲げられるのは、富士川火力発電所設置問題と日軽蒲原工場の煙害です。

(イ)富士川火力発電所設置問題については、市となることにより発言力は強くなりますし、あの反対運動に参加した三町住民のエネルギーが同一行政区で結集される結果市長、市議会は、わたくしたちのこの意志を背景に、新市の大きな課題として交渉を有利に進めることができます。

(ロ)日軽蒲原工場の煙害

工場から出るフッ素は、現在、蒲原町、富士川町、由比町の区域に被害を与えています。

この煙害を排除するためには、過去の事例が示すとおり、各町単独では遅々として進みません。三町が合併すればわたくしたちは同一市民として団結し、企業に施設改善を促進させることができます

現状では、工場が行政区の違う蒲原町にあるために、問題の核心をつこうとしても、そこにいろい

よく考えよう
わたくしたちの

日軽蒲原工場と公害防止仮協定

日軽蒲原工場は、昭和42年以来18億円の予算で、フッ素の脱溜装置の整備を続けており、完成時昭和47年には、フッ素放出割合を現在の三分の一以下に改善しようとしています。（日軽蒲原工場が現在進めている工場拡張は、一度製造した製品を精製するに必要な施設で、フッ素は発生しません）

中川町長は、18億円を投じて煙害を少なくしようとする会社の態度に好感を寄せながらも、昭和47年完成には強い不満を表明、早急に整備するように申し入れています。

なお、六月十二日に開かれた庵原地区合併研究協議会席上、①日軽蒲原工場に対し煙害防止対策の説明を求める②脱溜装置の短期間実現要望③合併した時点で日軽蒲原工場や関連工場と公害防止協定を結ぶが、合併前に三町長連名で仮協定を結ぶ――の3点を決定しました。

煙害は、その性質上、区域が広域にわたっております。蒲原町で発生した煙りは、町の境いでとどまらず、わたくしたちの町に害を及ぼしています。公害問題は、一町一地域ですまず、三町合併して新市全体の課題として対処していかなければならないでしょう。

合併の問題点

問題　三町合併した場合、従来の役場は廃止され、当分の間支所がおかれることになるが、支所で処理できない事務については、市役所まで出向かなければならず、交通費、時間等個人負担がかかる。

解決策　市役所の位置は、市の中心に予定されていますが、廃止された役場庁舎は、その区域の住民が必要とする期間、支所として事務処理します。支所長に専決権を与える予定ですので、かなり高度な問題でも支所で片付きます。

問題　三町とも起債等の債務がかなり増加しているが、新市となっての財源見通しはどうか。

解決策　財政力は合併することにより強化され、国・県の優遇借置も期待できます。前向きの姿勢としては、公害のない、地元に利益をもたらす工場を誘致して税収の増をはかることが考えられます。

合併問題
部落説明会

合併は、わたくしたち地域住民の将来の方向を決める重要な問題です。

町は、今までの研究経過を皆さんに報告し、町民皆さんのご意見をお伺いするため、次の日程で部落説明会を開きます。

全町民皆さんの出席をお願いします。

各会場とも午後七時開会

6月30日（火）幸町公会堂　幸町
7月1日（水）本通公会堂
本通一・本通三・本通四
〃2日（木）東町公会堂
東町一・東町二・日出町
〃3日（金）一小体育館
相生町・上町・旭町
〃4日（土）第一公民館
坂下・舟山町
〃5日（日）新町作業所
新町・新町四十九
〃6日（月）富士見台公民館
川坂・堺町
〃7日（火）小池公会堂
宮町・小池
〃8日（水）木島公会堂
木島・小山・室野
〃9日（木）北松野公民館
清水町・儘下町・大北町
〃10日（金）南松野公会堂
南町・八幡町
〃11日（土）平清水佐野義策宅
富士見町
〃13日（月）かぎあな区長宅
かぎあな

※次の資料を説明会に持参してください。
①合併研究協議会だより1～4号
②広報ふじかわ（6月号）

なお、当日、映画「ふじかわ」（カラー・21分）を上映します。

本年五月、町内法人・商店の協賛により、一六〇万円で製作した16ミリ映画で、町の観光施設、商工業の状況や昨年の文化祭、町民体育大会の模様などが記録されています。

町当局、町議会の説明会出席者は次のとおり。

町当局　三役・各課長
町議会　全議員

親と子の絵をかく会

五人に教委賞

第4回富士川町親と子の絵をかく会は、五月十日（日・母の日）に一中校庭で行なわれました。

百二十人参加し、町教育委員会に提出された作品も百六枚に達しています。

課題は自由――あちこちで親子が楽しく画をかく姿が見られましたが、小雨が降りはじめたため、午前で終了。

教育委員会は、渡辺清先生と佐藤道功先生に作品の審査を伝頼し次の方に教育委員会賞を贈りました。

（敬称略・評は渡辺清先生）

望月正人（松千代保育園）

「松の木がはえている」色彩的ではないが、松をよく見ながら丹念によく描いたあとがうかがわれます。

太田理恵（一小一年）

「遊び」子どもの遊びと周囲の風物と二つに分けて描かれているが、人物の描写力や絵の組み立てやすべての表現力は白眉の作品といってもよいでしょう。

新田あきひさ（一小一年）

「土手の上から」富士川橋を車がたくさん通っている。橋の描き方がいかにも一年生らしい。川の中で遊ぶ嬉しそうな子どもの様子もよくできています。

石居由香里（一小五年）

「一中の花だん」暖色を使った調和のとれた作品。花だんの花もよく見て描かれているし、画面のすみずみまでこまかい神経が使われています。

武下州衛（二中二年）

「公民館の見える風景」山を背景にした公民館と前景を大づかみによくまとめている。色彩もきれいでボリュームもあり力作といえましょう。

父母の作品

年々、作品に対する意欲が燃えて、よい作品がふえる傾向にあります。

ことしは、天候やその他悪条件が重なって、思うようにかけなかったようです。

作品の傾向としては、昔、学校で習ったままですから、絵として古い感じがするし、現代の子どもの絵との対話を欠くおそれがあります。絵とは何か？根本から考え直してみましょう。

◇――◇

なお、新田あきひさ君の「土手の上から」は、県の審査結果、中日東京新聞社静岡支局賞を獲得、ほかにも数点入賞しています。

児童扶養手当

受給範囲広がる

児童扶養手当を受ける資格のある人でも、きめられた額以上の所得があるときは、手当を受けることができませんが、このたび、手当の法律等の一部が改正されて、今までもっとも所得の支給制限がきびしかった受給者本人の限度額が大幅にゆるめられ、配偶者や扶養義務者（父母・子・孫・祖父母など）の支給制限額と同じになりました。

今、手当を受けている人は、毎年六月中に前年の所得を届け出て新しい証書の交付を受けることになっていますので、まだ届けを提出していない方は至急手続きをしてください。

手当を受けることができる人

児童扶養手当

父のいない児童（児童とは、義務教育終了前の者または20歳未満の廃疾者）または父が廃疾の児童を監護している母か、母にかわって養育している人で公的年金を受けていない人

特別児童扶養手当

精神または身体に重度の障害を有す児童を監護している父または母か、父母にかわって養育している人

手当額

（上欄は45年9月まで・下欄は45年10月から）

児童1人月二千百円　二千六百円

〃2人月二千八百円　三千円

3人以上　一人ごと四百円　同上

ただし、特別児童扶養手当については、該当児童数に上記児童1・人の場合の手当額を乗じて得た額

本人、配偶者、扶養義務者の支給制限の額

扶養親族数	所得金額
〇人	五四〇・四五〇円
一人	六九三・三七五円
二人	七八一・七二五円
三人	八七三・二〇〇円
四人以上	八七三・二〇〇円に扶養親族のうち三人以上の者一人につき九三・一〇〇円を加算した額。この制限額以下の方が支給を受けることができるわけです。

商工会員の皆さんへ

■国民金融公庫の申込みは毎月五日まで。

■面接相談指導は毎月十五日に行ないます。

このたび、国民金融公庫業務の円滑化をはかるため、申込みは毎月五日まで、十五日に面接相談を行なうことになりました。

普通貸付

貸付金額は最高五百万円で、資金使途は、運転資金、設備資金に限ります。

利息は日歩二銭二厘四毛、返済は月賦返済。商工会で返済組合を結成し、一括返済を実施しています。

支払期間は、運転資金五年以内設備資金七年以内となっており、保証人は一名以上設定していただきます。

担保は、個々の事情により提供していただくことがあります。

借入申込書は商工会にあります

申込み・調査・貸付・返済についての相談は、久松経営指導員へ

衛生プラント
五万四千人分の処理施設となる

富士川町外二ケ町衛生処理組合衛生プラントは、五月二十五日に改造完成しました。

当衛生プラントは、庵原三町組合し尿処理施設として、昭和三十八年三月三十一日に処理能力36㎘（人口三万六千人分）の加温消化法式として発足、以来三町の環境衛生向上に成果をあげてきました

経済成長とともに住民の生活環境も向上し、し尿の公共処理量も増加し、特別清掃地域もひろがり過剰投入をしいられるようになり放流水の水質悪化と悪臭公害を除くため、早急に対策を講じなければならなくなりました。

昭和43年以来、関係者の研究協議を重ねた結果、近代的な技術を誇る住友重機械工業株式会社のアーゼンドルフ方式を採用することに決定しました。

現在施設の一部増改良によって一日の処理能力を18㎘増の54㎘（人口五万四千人分）のし尿処理施設として、昨年十二月に着工し、ことし五月二十五日に完成。

この施設によって庵原三町の人口が増加しても、環境衛生の万全が期せられます。

総事業費　二千二百三十万円

財源内訳

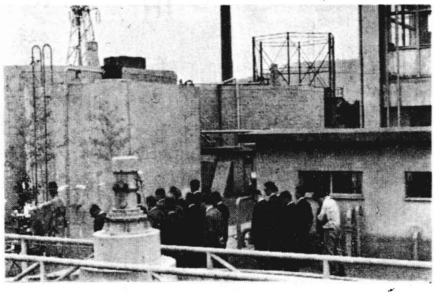
①起債（厚生年金保険積立金還元融資）　一千五百万円

②負担金　七百三十万円

富士川町31％　二二六万円

蒲原町　47％　三四三万円

由比町　22％　一六一万円



文化協会（秀村敏朗会長）所属の劇団創炎（斎藤博主宰者）は、町制70周年前夜祭として、五月三十一日、第一公民館で同団初の自主公演を挙行しました

入場者は、招待者を含め三百七十名。

玄関をはいると直正面に、社会奉仕団体・由里から贈られた赤い刺しゅう文字「炎」の額が掲げられ、受付の団員の折目正しい応待に爽快な感じを受けました。

場内は成人ばかりでシーンと静まりかえり、創炎に所属する楽団・炎の演奏がまず人々の心をとらえます。

続いて、氏車　十作3幕12景「逃散」―源平富士川の合戦―が始まったのが六時半、以後二時間半の演劇でしたが、感動につぐ感動で、少しも長さを感じさせず、しかもその感銘は、今もなおわたくしの心に脈打っています。気品の高い演劇だったといえましょう。

このような集団が富士川町にあるということは、当町の文化水準の高さを示すものとして、誇り得るにたるものです。

劇団創炎・楽団炎よ、文字どおり炎と燃えよ。　（斎藤）

創炎
（劇団創炎・楽団炎）
初夏の快挙

氏車十の戯曲は、いつも〈何をいいたいのか〉が不明瞭なところがあって、文学的な主題の弱さに原因があると、ボクは前から思っていた。

ところが、「逃散」はちがっていた。二時間半という大作で、氏車十は、一貫して庶民の共同体意識に照明をあて、武士階級との対立をとおして、庶民のなかのエネルギーを掘りだそうとする。

歴史を動かしたものは（愛と信頼と犠牲的精神を人間社会で形成し継承してきたものは）決して権力者たちではない、庶民だ、という問題意識を、源平の水鳥の羽音のクライマックスから一挙に明らかにしていく過程は、実に見事で正確であった。ボクは、口がきけなくなるほどの感動を（自分の怠惰への嫌悪もあって）味わったことを告白しなければならない。

はじめ、この自主公演の計画を聞いたとき、狂気の沙汰だ、とボクは氏車十に言った。今日では、観客が集まってくれると思うのは、素人の演劇ぐらいでは不可能なのだ。そんなことは百も承知で、敗ける賭けに体を張る気狂いの集団・創炎。まじりっ気なしのこの狂気を貫ぬかねば何もできない、氏車十はもちろん小田君、芦川君、清水君、佐藤君、加藤君、錦織君たちもそのことをよく知っているのだろう。創炎は立派なリーダーを育てた。

芝居自体について言えば、前半は、舞台と観客は分離していた。演出の小田君は心得ていたろうが、演技者が固くなっていて、脚本の要求している素朴な生活の美しさが、演技の内部で生かされていなかったのは残念である。

彼らの愛と信頼と戦いへの賭けは、その素朴な生活の美しさを基盤にして成り立っているはずである。

それはさておき、ともかく、これだけの仕事のできる集団は県下でも数ないだろう。

富士川町に〝劇団〟が生まれた、とはじめて言いきれる。

社会教育主事　池谷九万夫

第24回県スポーツ祭

町村対抗の部で　富士川町五位

富士川町体育協会（尾崎初男副会長）は、第24回静岡県スポーツ祭に選手を派遣次の三種目の総合得点で、参加39町村中第5位の成績をおさめ、表彰されました。

（役員選手敬称略）

■陸上競技（総合第4位）

若月伸元・池田辰哉・佐野昇司安藤文夫・小池満夫・丸山善浩・丸山博康・斎藤隆・清堅司・斎藤五夫・加藤正直

20歳未満百メートル

第2位　一二秒〇　池田辰哉

20歳未満走高飛

第3位　五m五五　池田辰哉

20～30歳未満走高飛

第3位　五m九二　丸山善浩

年令別四百メートルリレー

第3位　五〇秒七　丸山善浩池田辰哉・清堅司・加藤正直

五月十七日（日）午前九時半から午後五時まで、県営草薙競技場で開催。

■卓球（第3位）

岡本紘一・関原輝雄・和田武子渡辺千栄子・井上篤子・鈴木芳枝

五月十六日（土）午後一時から午後七時まで静岡駿府会館で開催

■ソフトボール（第3位）

（株）丸十鉄工所　斎藤久治・深沢儀市・斎藤三郎・古屋逸亘・田中邦男・細川利政・依田秀男・斎藤静晴・塩坂千之輔・田中稔・佐野幸一・遠藤一美・小池満夫・栗原好宏・宇佐美義郎

五月十六日と二十三日の二日間清水市一中グランドで開催。

水泳教室　二中プール　七月十九日

富士川町体育協会主催、富士川町、富士川町教育委員会、ボーイスカウト富士川第1団後援の「45年度町民水泳教室」が開催されます。

来月七月十九日（日）午前十時～午後二時。

富士川第二中学校プールです。

種目

①泳法指導　②模範泳法　③水上安全救助法指導　④エキビジョン　⑤記録測定（個人…自由形25m・百m・平泳25m・背泳25m・リレー…四人×25m）

参加料は不要です。申込は体協事務局（役場内・丸山博康）あて七月十五日（水）午後四時まで。

問い合わせ先

昼81一一一一　夜81〇七六九

第三回　太田利三展　東京で開催

第3回の太田利三展が、六月十一日から二十日まで、東京新宿・コマ劇場のカドー画廊で開催されました。

昨年五月、同じくカドー画廊で初めて個展を開き、続いて同年十二月、太田さんが所属している「青い芝の会」静岡県支部主催の個展を静岡市県民会館で開いてともに大きな話題を呼びました。

昨年の第一回展ではその自由な構想と、神秘を蔵した珠玉の光彩が人々を魅了しましたが、その後の精進で、今回の作品にはさらに大きさと深さが加わっています。

太田さんは、生後七カ月で伝染病ポリオにおかされて下半身不自由の身となり、小学校にも行けず独学で成人しました。幼ないときから、画をかくことが唯一の楽しみ、慰めでしたが、富士市に住む野上魏画伯（日本美術院院友）にその才能が認められ、以来、日本画を基本からみっちりと学びました。

不遇を克服して、画業に専念する太田さんの姿は、全国の身障者に生き抜く勇気を与えています。

なお、太田利三さんは坂下に住み、広報富士川連載まん画「のら」「星の子」で皆さんに親しまれています。

写真　カドー画廊での太田展と太田利三さん（中央）

一歩二歩

喰いもののウラミ、という言葉は、食物に対する人間の執着の深さを現わすが、昔の人の貧しさと卒直さを同時に感じさせられる。

昔の人の、といったのは、現代の私たちは、何か間違った豊さに踏み込んでしまったようで、今の若い人には、喰いもののウラミなどという言葉は、ナンセンスだからである。

ところで、結婚式の料理だが、大枚何千円かの代償にしては、もう少しなんとかならないものか。元来、祝いとか祭りとかは、封建社会で、蓄財（能力の他への転換の可能性）を成立させない役割を多分に受持ったものだが、今日まだ、私たちの周囲では、その尻尾が切れていない。

それどころか、そんな料理は、犬にでもくれればいい、と若い人はいう。冗談ではない。犬がこんなものを喰うか？　犬だって、もっと犬らしいものを喰いたいのである。せめて、犬ほどの正直さで喰いたいものの方を、選択できないものだろうか。消費は美徳という踊りが、どんな恐ろしい踊りか気がついてくれないだろうか。

社会教育主事　池谷九万夫

空に心に雲はなく

青年団ソフト大会

青年団ソフトボール大会が、六月七日（日）午前九時、一中校庭で行なわれました。

各支部対抗で11チームが参加し青春の情熱にも似た、ギラギラ輝やく初夏の太陽のもと次々と熱戦を展開。

色とりどりのユニフォームにサングラス、女性も最低二名はレギュラーメンバーとして出場したとあって、激戦にもかかわらず、各試合に一種華やかでおおらかなソフトムードがただよう。

各監督は、それぞれ秘策を練り女子ピッチャー登場、ピンチヒッターの起用、初球攻撃、フォアボール作戦やらでチームの持ち味を十分発揮させていました。

観客席の応援団も、勝敗にこだわらぬ熱心な声援、空にも心にも一片の雲もない、見事な「青年団ソフトボール大会」でした。

決勝は、北松野チームとOBチームで競いましたが、結局、延長の末一点差で試合巧者OBチームの貫録勝ち。終了時間は午後五時を回っていました。

優勝　OB　チーム

2位　北松野　〃
3位　南松野　〃
4位　室野　〃

星の子

太田利三

青年団行事

6月20日　19～21時　一小体育館
バレーボールサークル

6月25日　19～21時福祉センター
青年文化会議

6月27日　19～21時　一小体育館
フォークダンスの集い

当町の県政モニター決まる

昭和45年度の県政モニターが決まりました。

全県下で二五〇人、任期は45年4月1日～46年3月31日。

県政モニターの仕事は、県政に対する地域住民の要望・意見・苦情等の声を県に伝達し、県政に反映させるものです。

県は、この制度を重視しており各県政モニターから出された「住民の声」を尊重し、回答を求めている場合には、早急かつ積極的、具体的に応答しています。

■45年度当町県政モニター
〈敬称略・（　）内は昨年度の県政モニター〉
辻　孝　本通四　理容業
植松法子　相生町　主婦　新
（石川文彦　儘下　農業）

富士川町広報通信員留任

昨年度に続き二期目

今年度の富士川町広報通信員は前年度の通信員がそのまま留任することになり、六月三日午後六時役場会議室で開かれた同通信員会議の席上、町長から委嘱状が渡されました。

富士川町広報通信員制度は、四十三年十二月一日に発足しており当町広報機関の特異性を示すものとして、今後の進展が期待されます。

当町の広報は、①広報紙「広報富士川」②無線放送施設③広報車④回覧板⑤チラシ類の五つの媒体を使って活動していますが、なかでも最大の媒体である「広報富士川」を町民皆さんにより親しまれより立派にするために必要な制度です。

広報通信員の任務

①広報の効果測定
町政に対する町民皆さんの意見要望を知る町の広聴活動への参加および単的な広報活動効果測定
②担当地区内のニュース通信
広報富士川掲載用ニュース通信
③広報車による広報展開

広報通信員氏名　（敬称略）
（任期・45・4～46・3）

中之郷地区　土橋一夫　宮町
岩渕　〃　小田善一　坂下
木島　〃　植松重行　小山
南松野　〃　清水　晃　新井
北松野　〃　石川文彦　道上

善意銀行寄託

〈現金口座〉
一〇、〇〇〇円　芦川年雄　堺町

〈物品口座〉
雑布一三〇枚　常楽会　新町老ク

人の流れ

45・4・20～5・19
（敬称略）

祝結婚

区名	新郎	新婦	旧性
坂下	斎藤茂樹	弘子	伏見
清木町	望月政司	ツヤ子	吉田
新町	福井　廣	八重子	藪崎
上町	太田和夫	早苗	山本
大北町	風岡　博	幸江	秋山
東町二	三浦悦雄	あつ子	佐野
上町	池谷勲夫	幸子	斎藤
小池	加藤守康	孝子	篠辺
南町	川島恭平	早苗	美尾
八幡町	白井琢磨	晴美	秋山
東町一	望月寛次	静江	宇佐美

上町　佐野高章　久子　中村
坂下　藤島　肇　わか枝前島
堺町　池田則夫　文子　岡崎
大北町　佐野武男　哲子　望月
八幡町　山崎輝夫　真理子松尾

祝誕生

区名	氏名	保護者続柄
坂下	斎藤弘昭	雅義　長男
清水町	朝比奈真弓	晃造　三女
小池	望月友嗣	照五　長男
東町一	星野昌子	森三　長女
南町	灰田豊美	幸男　三女
東町二	一ノ瀬寿夫	要　長男
幸町七	紅林智美	東司　長女
南町	市川国将	忠良　長男
大北町	佐野愛美	義彦　長女
〃	佐野秀明	武秀　二男
八幡町	稲葉和人	政博　長男
儘下町	錦織広治	正　二男
小山	多芸比呂志	仁　二男
清水町	田中美幸	邦雄　長女
木島	佐藤美幸	良一　長女
相生町	太田晴美	祥晴　長女
東町二	太田　香	渥雄　長女
南町	田辺なぎさ	和之　長女
木島	望月　剛	信男　長男

祈冥福

区名	氏名	年令
宮町	天野松子	四七
儘下町	杉原格太郎	八五
舟山	花田清作	七六
〃	神田義作	七四
儘下町	神谷新吉	七四
四十九	佐野みつゑ	五八
川坂	若月　清	六一
相生町	青柳重雄	五六
富士見町	井出シマ	八六
本通三	望月はま	八五
新町	森山いよ	六〇
東町一	望月喜三郎	七七

転出（結婚）

区名	氏名	転出先
旭町	斎藤加代子	沼津市
新町	芦沢芳子	富士市
日の出町	木内邦子	静岡市
富士見町	井出末子	蒲原町
八幡町	望月トミ江	富士市
南町	平野享子	長泉町
相生町	天野光子	沼津市
本通四	野村和世	清水市
木島	角替由紀江	富士市
儘下町	蓮池由子	山梨県
坂下	斎藤恵美子	富士市
木島	芦川恵美子	清水市
宮町	若月琴子	富士市
清水町	沢地綾子	浜松市

編集覚書

■年少の友の贈物、まむし一匹。都市での蛇料理に聞く高価なものだが、その値段ではかるのは失礼な友の思いやり。うっとうしい梅雨をはねてくれた。感謝し焼酎に漬ける。

■本格的な夏がやってくる。胸ふくらませて海へ山へ。もう一人の友「注意」とともに出かけよう。

広報富士川　81一一一一斎藤　博

富士川夜話

矢は示す

氏車　十

土蔵前の庭を丹念に掃いていた下男の辰蔵が、何気無く植込を見ると、目の高さの松の枝に子どものいたずららしい粗末な矢がひっかかっていた。取捨てようとして引張ったが簡単に手許にこない。注意すると、矢竹に結ばれたタコ糸が枝にからんでいる。辰蔵は、枝をいためないよう慎重にもつれをほどき、その矢を手にした。鏃は細のみを代用してあり、かすかではあるが、その表面に白い土が付着していた。

白い土……辰蔵は、土蔵の壁を見あげた。九尺ほどの高さの所にそれらしい傷痕がある。

――こりゃあ、子どもの仕業なんてもんじゃない。誰かが何かのために土蔵に向けて射込んだものだ。外の路地からあの黒塀に飛びつき、塀の上にまたがり……立ちあがることはできないからな……体の均衡を保ちながら発射したんだな。当った箇所がちょうどそんな高さだ。タコ糸は、この矢を回収しようとして使われただろうがここでからんで切れたに違いないそれにしても、なんのために？――

はしごを持ってきて壁の傷痕を調べた辰蔵は、奇妙なことにぶつかった。刺さった角度から、矢は黒塀にまたがった姿勢の位置よりもっと高い所から発射されているようである。塀より高い所と言えば青い空間しかないのである。主人に話そうかとも思ったが、一体何を話すのか、辰蔵は考え直し自分の胸の内にしまいこんだ。

辰蔵の奉公している金丸屋は、富士川の岩渕河岸に軒を並べる問屋の一つであり、甲州鰍沢と舟運を通じて活発な取引をしていた。

二、三日ほどたって、辰蔵は、主人の言いつけで中之郷村へ出かけた帰り、近回りをしようとして店の裏側、つまり庭の黒塀に付いている木戸からはいろうとした。一間ほどのせまい路地を境に隣家の庭があり、丈の低い、まばらな槙の木の生垣となっているが、辰蔵の目にとびこんできたのは、庭に投げ捨てられるように置かれてあった、作ったばかりの、また、えらく長いはしごであった。

――はしごを使ったら、ちゃんと片付けておけばよいに――

辰蔵はそう思いながら、いきなり投げとばされたような激しい衝撃を受けた。

この家は、半年前、持主が変り現在は、甲州生まれの伍助という四十年輩の男が住んでいる。近郷近在を行商しているということでいずれ、甲州から女房、子どもを呼び寄せると聞いていた。辰蔵は伍助が時折出かける一膳飯屋を思い出した。

「どんな人柄って？……そうね明るい、賑やかな人ね。……でも……、そう、十日ほど前だったかしら、伍助さん、二人のお客さんと連立って来て、珍らしく酒を注文したがね、その時は、いつもに似あわず小声で真剣に話し合っていて、わたしがそばへ行くと、ぷっつっと話を切ったりして、そりゃあ妙だった……うん？……その日以後来ないわ」

その夜の九つ時分、辰蔵は裏口から外へしのび出た。その家は黒々と怪奇な魔性を帯びており、思わず身震いしたが、勇を鼓してそっと近づき、体全身を目に耳にして異様なものを探ろうとした。しばらくすると、しじまを破って物音が聞えた。この深更に、屋内では、人が何か仕事をしているのだ

◇――◇

翌日、伍助たち三人が逮捕されたが、地下道が七間ほど、土蔵まであと一間までに掘られていた。